

平成29年度の東京鶴城会総会・懇親会で待っとるばい！

会場でお会いしましょう！



東京鶴城会幹事会にて(平成29年3月25日)

会員の皆様、お変わりございませんか。あの未曾有の熊本大地震から早1年が過ぎました。全く予期せぬ大地震でした。津波や原発事故が発生しなかったのが幸いとはいえ、まさに大惨事でした。

会員の皆様の実家や親せき、知人の自宅も多くが被害を受けました。故郷を離れている私たちに「何ができるのか、何をすればいいのか」悩みました。気持ちは大ですが、できることは限られています。

昨年の東京鶴城会の総会でささやかですが、目的を絞って甚大な被害を受けた、

宇土高校同窓会会館や同窓会事業を支援するために、気持ちを込めた支援金をお贈りしました。長い道のりだと思いますが今後も見守り、支援を続けます。

明るい話題は、母校が勉学やスポーツ、芸術文化等の各方面で活躍していることです。また、宇土出身の「濱の嶋」に続き、「正代」の活躍も大いに楽しみです。元気なうちに、参加出来るうちに、みんなでお会いしましょう。何かがあります。何かがあります。あなたの心に。私の心に。

東京鶴城会会長 田中幸資

東京鶴城会便り

発行責任者 田中幸資

平成28年度東京鶴城会総会 “思い出アルバム”



謎のマジシャンによるパフォーマンスは大盛り上がりでした。今年のイベントにもご期待ください！



会場入口に熊本地震への募金箱を設置しました。

あの東海大校友会館（霞が関ビル35階）で、楽しいひと時をお過ごしください！

楽しいイベント、大くじ引き抽選会等で、満喫した時間を お楽しみいただけます！



霞が関ビル35階からの眺望は圧巻です！

還暦同窓会に出席して

熊本市内で開催された、今年1月8日の還暦同窓会（写真）に出席した。

「わあ、懐かしかね！どぎゃんしとった？・・・」に顔を見つめられて話しかけてこらす。当時、そこにあむぞらしかった3本線入りのセーラー服を着た艶姿を遠い目で思い出しながら、「あの頃のまま・・・」などとは、声に出してはとてとても言えなかった。久しぶりの宇土高時代の同級生との再会はなんとも良いもんだ。

実はこの大同級会は、4年に一度、オリンピック年の夏に開かれているのだそう。私は初めての出席であった。去年4月の熊本地震の影響で、正月に延期となった。親の法事のついでとってはなんだが、いろんなタイミングを合わせての懐かしい級友との再会であった。

42年前、卒業式が終って急に東京に行く日が決まり、1週間もしないうちの慌ただしい上京だった。当日は、熊本駅の「みずほ号」が発発するホームの蔭からそっと見送ってくれた人もいた。あの時以来、一度も会っていないあの人が、黄色い公衆電話で、遠距離通話の百円玉の落ちる音をうらめしく聞きながら話したり、職場で一仕事が終わっての夕食の時間に呼び出しの黒電話で、同僚や先輩

たちにうしろで冷やかされながら、ヒソヒソドキドキしながら話してた日々を思い出す。振り返れば、いろいろあつての今がある。担任だった先生を始め、何人かの恩師も同窓会には招かれて来ていらっしやった。あの頃は、先生方も若くてギラギラしていたが今はすっかり・・・。42年の歳月は正直でむごいと思った。でも、達者でやっとならば、こうやってまたいつか会えたり、酒も美味しく飲めるのだ。日々の不摂生を反省しながら元気に生きて、いつかまた会いたいような気持になる。はたまた、ずっと二階の図書館で周りを気にしながら小声で話していたあの頃の青い“**レモンの香り**”の思い出のままにしまっておきたいような・・・。

森内忠美（昭和50年卒）



熊本県民になじみの“あれ”を堪能！

社会人になってからは、年末年始に休暇を取るとはほとんどありません。仕事柄もあります。正月をはずして、1月末～2月初めの間、まとめて休みを取り、ゆっくり帰省するようにしています。そういう訳で、お屠蘇やおせち料理には、ここ数年、縁がありませんでした。今年1月末に帰省しても、残念ながら、お屠蘇やおせち料理、時には、お餅さえも食べられない状況でした。今年の正月は仕事でした。勤務中に「熊本のお屠蘇は赤いのよ」と同僚に話すと大変驚かれました。「お酒じゃなきゃ、何を飲むの？」そう、熊本県民にはなじみの“あれ”です。「**東肥の赤酒**」は、子供の頃？から飲み慣れた、あの味が私にとってはお屠蘇なのです。灰持酒（あくもちざけ）という木炭を用いて造られるこの赤酒は、独特の香りと味わいで、飲むと新年を迎えたという気分になります。松橋の実家では、正月が過ぎると“料理酒”に変わってしまいます。

そんな赤酒を宇土高校の後輩に誘われて行ったお店

で、今年の1月に飲むことができたのです。嬉しいことに、瑞鷹のお猪口で飲む赤酒は格別でした。店主が熊本出身とのことで、メニューにない赤酒を特別にありがたく頂きました。「きっと、料理に使うために置いてあるのでは・・・」と思ったら、なんと赤酒をジンジャエールで割ったカクテルがあり、初めて味わう不思議な感覚でした。これなら、正月や特別な時ではなく何時でも飲めます。ご興味のある方は、大門の「**漠**」というお店を訪ねてみてください。「松の内」とはいきませんでした。早々に赤酒のお屠蘇を頂いた今年は、なにか幸先の良さを感じています。昨年、熊本地震で「半壊」の判定を受け、建て直し中の実家は梅雨入り前には完成予定です。熊本に帰省する度に、ブルーシートが少なくなってきたり、建築現場も増えてはいますが、まだ手が入らず、復興・復旧には時間は掛かります。「一日も早く熊本に元気になってほしい」そんな思いで頂いた「赤酒」でした。

上原久美子（昭和60年卒）



最近、表題の製作にはまっている。ビール等の飲料空缶を利用した工作である。アルコールストーブ(以下、ストーブという)と言えば理科実験で使った、アルコールランプが頭に浮かぶがそれとは全く異なる。始めた理由は単純。インターネットで見かけた記事を読んで、自作のストーブで沸かしたお湯でコーヒーを飲み、即席ラーメンを作りたいと思ったためだ。

実際作りはじめると、いろんなことが分かってきた。使用する飲料缶の直径は、約66mmと約52mmの2種類。ビール、酎ハイは前者、コーヒーは後者が多い。

また、いろんな形式のストーブがある。個々に〇〇式という名称までついている。自分なりに見よう見まねでいろんな種類を作製してみた。ノズル穴を開けるものが多いが、結構手間と時間がかかる。最終的に現在、一番気に入っているものは空缶1本から作るもの。わずか2個のパーツからなり、ノズル不要、五徳不要、製作時間も約30分。着火から本燃焼までは数秒で、それでいて火力はアルコールとは思えないほど強い。(写真参照) コーヒー程度の水量であれば数分で沸騰する。もちろん、本格的なガスやガソリンストーブには及ばないが、気になるレベル差ではない。

作製するためには、缶飲料を購入しなければならず、中味は自然と自分の胃袋へ捨てることになる。これがまた楽しい。いつのまにかストーブを

作る為に飲料を買うのか、飲料を買う為にストーブを作るのかわからなくなってきた。(いろんなビール、コーヒーを捨てた。最近は酎ハイを捨てることが多い)

このストーブにも短所はあるが、ガス、ガソリンストーブにはない良さもある。青い炎はやさしさを感じる。このストーブは、災害時の緊急用として常時備えておきたい。備えなくても、簡単な道具があればその場で製作可能である。水を沸かすだけでなく炊飯もできる。またストーブ用燃料は、近所のドラッグストアで入手できる。

もうすぐ釣シーズン。釣場でのラーメンが楽しみだ。さて今日は、どの酎ハイでどの種類のストーブを作ってみようかな。

大田敏幸(昭和42年卒)



アルコールストーブ製作手順



左側；お茶缶
中央と右側；お茶缶をカットし、2個のパーツにする
中央→燃料容器、右側→管の胴部



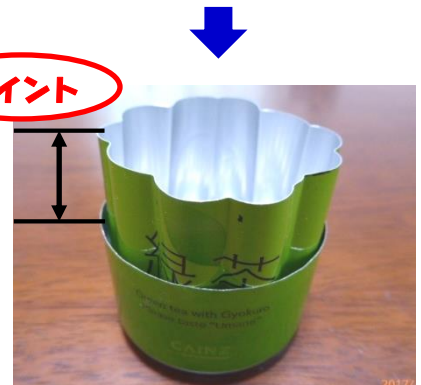
胴部を波加工する
波の数は8~16



燃料容器の底の形状に応じて片側に5mm~1cmの切れ目を入れ、内側に折る。底がフラットの燃料容器の場合、この加工は不要



燃料を入れて着火。
数秒で本燃焼になる



燃料容器に胴部を挿入し完成

ポイント：波加工する胴部の長さを燃料容器の深さより10~15mm長くする。短いと水を沸かさず容器を載せた際、火が消える(酸素不足)

「定例ろくご会（70歳）」の報告

1965年卒の「ろくご会」では、2016年2月（平成28年）に「下田への古希記念一泊旅行」の古希記念ろくご会を企画実施して、前回の鶴城会便りでご紹介しました。

今回は、毎年定期開催されている、「定例ろくご会」をご報告します。開催は、毎年11月の最終土曜日実施となっていて、平成28年度のろくご会は、昨年（2016年）の11月26日の開催でした。

会場は改装された港区六本木の霞会館で、幹事は河野浩士君です。70歳の記念とあって、参加者は17名と例年になく多数の参加者となりました。昨年（2015年）の4月には熊本地震の発生で、その状況を知りたくて参加が増えたとも思われます。

しかし、いろいろな事情で参加できなかった方々がいるのも事実です。会場は六本木の華やかなイメージと違って、落ち着いた趣の大人の空間です。「ろくご会」は、元生徒会長の朽木君の挨拶と乾杯発声で始まりしました。朽木君は、熊本と江ノ島の自宅を数か月毎に行き来しているので、話は熊本地震の体験を知る良い機会となりました。

美味しい和食懐石を食しながらのお酒が進んだところで、各自の近況報告（大体が、病気か？体力？どこの誰々が？・・・）で、たわいのない話題ですが、久しく会っていない方もいて、こうやって参加できる同期会が有る事の喜びが感じられる内容が多かったです。

これからも「ろくご会」は続くと思いますが、無限には続かないのも事実です、参加できる時には、是非、参加してください。（今年は11月25日です。その合間に何回かリハーサルあり）

和食懐石の飲食と久々の熊本弁が参加者の心を和ませ、あっという間に二次会の大カラオケ会場へ移動し、名歌手ぶりが板についた？70歳が歌いまくりました。

カラオケの締めは、もちろん「高校三年生」を全員で手を取り合い楽しく盛り上がりました。来年の「定例ろくご会」での再会を祈念して、やっと散会となりました。

参加者は以下の通りです。

- 1組、永井秀夫、霜田智鶴子
- 2組、島内哲夫、名和誠二
- 3組、金柿台四郎
- 4組、清田敬司、萩原英敏、山村艶子、野村寿美子
- 5組、小田 潔、朽木輝道、
- 6組、河野浩士、河野 毅、草野研一、境屋由夫、佐藤悦子、金柿冷子以上17名



集合写真



集合写真美女



カラオケ『高校三年生1』



カラオケ『高校三年生2』

境屋由夫（昭和40年卒）

宇土高在学時の思い出

宇土高校を受験する時、父から「合格しなかったら、**ブラジルに移民させる**」と言われ、入試に向けてウトウトしながら夜11時頃まで勉強した記憶が鮮明です。当時は、ブラジルへの移民が多かったか分かりませんでした。が、(父からの言葉は)とてもショックでした。何とか合格の通知を頂くことができました。

入学後は、豊田村(現在、城南町)からピカピカの自転車に乗り、約40分間の通学時間でした。当時、道路は砂利道で、特にダンプカー、バスが追い越していくと前が見えなくなるほど砂埃が舞い上り、学校に着くと学生服が一部真っ白の時もありました。今思うと、砂埃を大分吸ったんだろうなあーとソットとする一方、よくも病気をしなかったなあ、若き“青春の力”に感謝しなければと思う次第です。

一方、学習・勉強の面では、1年時の古文や漢文の授業で、スタイルも良い美貌の女先生が、文章の意味を説明されるが、これをノートにとることが苦手・遅くて、書き損ないも多く、十分に理解できませんでした。2年生の体育時間では、新しい先生でおしゃべりしながら(雑談?)運動場の草取りも何度かあり楽しかったです。

クラブ活動は、中学校からやっていたバスケットボール部に入り、5月に開催された城南大会(熊本南部地区)の会場が天草高校であり、初めての天草と旅館宿泊で気持ちが高揚したのを思い出します。身長(当時178cm位)があったことから、1年生ながら出場させて

もらいましたが、試合に対する意気込み不足を痛感しました。日々の練習では、よき先輩や日本合成化学の方などの厳しく、愛情のある指導や後輩を含めたチームワークの良さなどで、上手くなれたと感謝しています。

在学時、一生懸命勉強をした記憶は余りありませんが、クラブ活動は大変辛い一方、達成感や快感を味わうことが出来て、協調性や忍耐力の大切さなども身につきました。このような在学時の経験や人とのつながりなどが、今の私に育ててくれたものと思っています。

社会人になり、数年後に東京鶴城会総会の案内状を頂き、最初は同期と二人で参加しました。会場では、諸先輩の皆さんから気さくに声を掛けられ、城南町や富合町出身などの状況や父が宇土高校に在任していた状況なども聞き、驚きもあり、頼もしい会であり、よき先輩・後輩の強い連帯も痛感した次第です。また、原宿にあった先輩の店(かつ半)に行けば、諸先輩が必ずいて、愉快で楽しいひと時だったことが、大変懐かしいです。簡単ですが、思い出の一部を述べさせて頂きました。

谷川研一(昭和39年卒)



熊本弁講座 - 「す」、「せ」、「そ」編



創刊号からシリーズ化した熊本弁講座ですが、益々、大好評につき?今回は「す」、「せ」、「そ」編です。恥ずかしがらずに、どうぞ声に出して熊本弁を懐かしんでください。

- ①「**ずんだれ**」(だらしない)
「ずんだれた服装は、見苦しかけん、やめなっせ」
(だらしない服装は、見苦しいから、やめなさい)
- ②「**せからしか**」(うるさい、忙しい)
「きのんばん、とちゃんのいびきがせからしかったばい」
(昨夜、お父さんのいびきがうるさかったよ)
- ③「**せせる**」(さわる)
「あんまり、かさぶたばせせんやよ!」
(あまり、かさぶたをさわらないでよ!)
- ④「**そーにゃ**」(すごく、とても)
「うちんこどんと、あたんこどんは、そーにゃねんごろたい」
(うちの子供と、あなたの子供は、とても仲が良いね)
- ⑤「**そぎゃん**」(そんなに)
「そぎゃん、おごらすなよ」
(そんなに、怒らないでよ)

It's a Kumamoto Dialect

「どこのカラスも黒かばい」

私の実家は轟の白山の中腹、轟水源地方面といえは分かってもらえるだろうか。熊本大学医学部付属看護学校卒業を次年3月に控えていたある日、私と母は、大きな甘柿の木の根元に腰を下ろしていた。柿の実を頬張りながら、東京の慶應義塾大学病院へ就職したい理由をあれこれ喋っていた。「熊大病院の病棟の婦長さんの指導が納得でけん、やっぱり地方より中央ばい、自分の意見を述べるためには標準語ば知らんと…それは東京にある!」等々まくし立てていた。「そぎゃん言うなら行きたい。ばってん…どこのカラスも黒かばい」と母は柿の種をぺっと吐き出して、「うひょひょ…」と可笑しそうに笑い出した。都会に憧れて行きたがっている私の気持ちはお見通しだったのだ。

庭先にむしろを敷いて、父は布団袋に寝具を黙って詰め込んだ。えんじ色に白い太紐の布団袋は兄が使っていたものだったので、ちょっと臭かった。布団はチッキ(自分の乗った汽車に積まれた荷物)で運ばれた。友達が大牟田駅のホームで、「ひよこ」の菓子箱を持たせて見送ってくれた。「いつでもひよこば送るけんねー」、「ありがとう」涙で霞む友達の姿と黄色い「ひよこ」の菓子箱。

しかし新宿のキオスクに九州限定品と思っていた、黄色い「ひよこ」の菓子箱が陳列されていた。あんなに感動的に別れを惜しみ約束したのにと、ぐらりした。慶応大学病院に就職した。東京弁を無理やり使うので時々舌を噛んだ。そんな時熊本弁懐かしさに一人、部屋で歌った歌がある。小学生時代に流行った、水原弘の熊本弁版「**黒い花びら**」がそれである。

「♪黒かア花びら そろっとつっこけたア あん人は戻らっさん 遠か夢 おどま知っつとばい 恋ん悲しかつばア 恋ん苦しかつばア だけん! だけん! もう恋んごたつとはしようごつ無か しょうごつ無かつばアい♪」

思い切り感情を込めて大きな声で歌う。歌っているうちに、一人で可笑しくなって「うひょひょ…」と笑い出して、元気を取り戻したものだ。ホームシックだったのだろうか。今でも時折、ふいに歌いだす。熊本弁がグッとくる。

慶応大学病院の寮は信濃町にあり、歩いて3分の明治神宮外苑には、よく散歩に行った。東京のカラスは「カーア」と鳴いて、そして、黒かった。

田中久美子(昭和43年卒)

ゴルフ場でのハプニング！？

前回は、腰の手術（腰椎狭窄症、すべり症）をする前でしたが、30年来の趣味・社交ダンスのレッスンも自分のタイミングで踊れず、ゴルフもコースに出ると、後半3ホールは臀部の下がしびれ、痛み止めを飲みながらプレーしていました。3年前（小生68歳の時）、多少、養生出来ると思い、手術に踏み切りました。術後2年半は、ゴルフの練習時、右臀部に痛みが走りました。今も腰には余力をかけない様に注意しています。

今年2月28日は、地元のゴルフ練習場仲間・Y氏のメンバーコース・「新宇都宮カントリークラブ」でプレーをしました。メンバーはY氏、S氏夫妻と私の4人で、いつも岩槻（現さいたま市）の練習場で火曜日にご一緒している仲間です。S氏のお嫁さんとは20年来の練習場の友人です。私は約27年もゴルフを続けていますが、この間、とても奇異な出来事がありました。プレー当日、上述の練習場を朝7時に出発し、北関東自動車道を使い真岡下車して20分程で当該ゴルフ場に到着しました。久しぶりに、天気良く陽気なプレー日和でしたが・・・お客様も少ない日で、前後誰もいない「中コース」ひとホール目でハプニングが発生したのです。プレーヤー全員がドライバーショットを打ち、S氏が乗用カートを移動した時でした。その乗用カートのブレーキが甘かったのか、あれよあれよという間に、藪下に落ちてしまったのです。男性二人が大慌てで追い掛けましたが間に合いませんでした。ケガ人がいなかったのが幸いでした。ゴルフ場の支配人と作業員がすぐに駆け付けてくれて、手際良くゴルフバッグを別の

乗用カートに移し替えてくれたので、心の動揺はありましたが、なんとか2打目を打つことが出来ました。ゴルフ場の方々には、すっかりご迷惑を掛けしてしまいました。手動（マニュアル式）の乗用カートの時は、皆さんも「P」をしっかりと押しておくことをお勧めします。午前中の9ホール目、S氏のアプローチがグリーンオーバー。バンカーからグリーン上に「ナイスオン」したのは良いのですが、今度は「パターがない！」と大騒ぎです。中コースでプレーしていたのは、私達だけだったので、前のホールまでカートで探しに行ったり、アプローチをした場所まで行ったりで、やっとパターが見つかりましたが、プレー時間のロスは否めませんでした。私はS氏に「ワンコイン罰金です！」と思わず声を荒げてしまいました。（これでS氏も少し気が楽になったかな）

プレー終了後、「菓子折」を持って「また、新宇都宮カントリークラブに連れて来てください」とY氏に伝えると、すぐ話がまとまり、3月23日にプレー決定。S氏のお嫁さんは、私と同じく地元のソフトボールチームで活躍していた方で、スポーツウーマンです。ウォーキングと腹筋は欠かさないとのこと。ここ3年でドライバーの飛距離では30～50ヤード、私は彼女に置いて行かれません。先月末には、「月例」（過去1年の1～3位までの入賞者が対象）の試合がありました。「もう少し頑張れるかな」の思いで、練習場通いとウォーキングを続けたいと決心しました。

大久保千鶴（昭和38年卒）

ビバ宝塚！ - 私の初体験

68歳になって、またまた初体験です。そもそも事の始まりは、弊社の社長がひよんなことで「夢奈瑠音（ゆめなるね）」という宝塚の研修生とワインバーで知り合ったことでした。社長は、彼女と話をしているうちに瑠音ちゃんを応援したくなったそうです。瑠音ちゃんにとっては、ラッキーだったかも知れません。それから、社長に誘われるままに「夢奈瑠音ファンクラブ」に入会しました。ディナーショーにも行きましたし、「出待ち」、「入り待ち」も体験しました。

最近のステージも観ましたが、瑠音ちゃんが素晴らしいとかいう以前に、宝塚のステージの華やかさにはただただ圧倒されました。嬉しい事に、瑠音ちゃんは社長を介して自分のこともよく覚えてくれており、例えば、途中ですれ違う時など目が合えば、必ず目礼をしてくれるようになりました。こうなれば、やはり可愛さが倍旧します。彼女は3月の新人の卒業公演では、主役の座を射止め、名作「グランドホテル」を見事に演じてくれました。ただただ感激です！

宝塚の肖像権の問題もあり、（本人の）写真を提供できないのが残念ですが、興味のある方は是非、検索してみてください。これからの月組を支える一人になることは間違いないですが、自分としてはトップの座にまで上り詰めて欲しいです。

瑠音ちゃんとは別に、自分が今、手伝いで役員をやっている会社のアンバサダーとして、元宝塚の「彩月つくし」と先日退団した「彩波けいと」とさんとも一緒に仕事をする機会があり、自分にとっては、宝塚スターが身近に感じられるようになりました。

まさか、この歳になって宝塚スターを身近に感じられるようになるとは・・・という驚きの報告でした。

オジサンが宝塚の舞台を観に行くのは若干勇気がいりますが、皆さん是非、一度は体験されることをお勧めします。

萩原 秀文（昭和42年卒）



「結婚記念日にもらった、 神様からのプレゼント」

昭和40年（1965年）卒の河野浩士です。東京の「65会」の幹事を20年以上させてもらっています。2009年に英語教師を退職し、東京の日野から中央高速小淵沢インター近くの長野県富士見町に移住しました。理由は、目の前に南アルプスの主峰甲斐駒があり、後ろに八ヶ岳が見える素晴らしい景観があり、それまでに熱中していたスキーがすぐ近くででき、しかも長年憧れていた田舎暮らしができる所だったからです。

今年の2月2日にちょっとした奇跡が起きたので“お分けしたい”と思います。その日は、夫婦の42回目の結婚記念日だったので、いつも行っている車山スキー場から少し先にある、ブランシュたかやまに行こうと私が言い出して行ったところ、たまたまその日は、シニアスキー客を増やすためのキャンペーンをやっている、なんとリフト券が無料だったので、「ついてる、ついてる」と喜んでいたら、私たち夫婦が到着したタイミングがマッチしたようで、長野放送局テレビの取材もあって、私たちの滑っているところを撮影してもよいかと聞かれ、二人とも多少の自信があったので軽い気持ちで「よかですよ」と答えたら、他にも20人ぐらいのシニアがいるのに、撮影や取材が私たちにはほぼ集中し、1時間半ぐらい撮ってくれ、最後にはなんと、おうちに伺ってもいいですかと尋ねられたので、驚きながらも、たまたま家

を少しきれいに片付けてあったので、これも軽い気持ちで「よかですよ」と答えたら、車で1時間もかけて4人で取材に来てくれ、田舎暮らしを始めた理由や教員時代の写真や家族の写真はないかなど聞かれたので出来る範囲で応じると、その写真を器材で撮ったり、家の風景を撮ったり、家から車で1分ぐらいの所で見える富士山を撮ったりして、これにもまた1時間半ぐらいかけてくれました。

そして2月6日の放送日には、約8分の放映時間の半分ぐらいの時間を私たちがスキーで滑っているところや話、家、富士山の景色に費やしてくれました。夫婦二人でこの放送を見た時、「神様は、結婚記念日になって素晴らしいプレゼントをくれたんだろう！」と驚きと感謝の気持ちでいっぱいになりました。その日や翌日から「テレビで見たよ」と何人もの友人や知人から言われ、これも驚きと感謝でした。

昭和40年卒 河野浩士



三角からの便いです！

ご無沙汰しています。昭和42年卒の池田です。

2014年3月に「関東は地震が怖い」ということで、三角に帰ってもう3年になります。この3年間で家を建て、妻（昭和47年卒）が自動車の免許を取り、義父と母を看送り、義父の1周忌を済ませ……取りあえず一段落。さて、「これからの隠居生活をどう楽しもうか」と思っていた矢先に、あの熊本地震でした。幸い、三角には大きな被害はほとんどなかったのですが、16日の本震の時は揺れて、すぐ津波注意報が発表されたので、義母や伯母を連れて中学校跡地に一時避難しました。阪神淡路大震災を大阪で、東日本大震災を浦安で経験し、運輸省の防災担当の窓口として2年ほど仕事をしてきたこともあり、地震には慣れていたつもりだったのですが、「震度7」という日本で10年に一度も起こらないような大地震が連続して2回も、しかも熊本で発生するとは想像もしていませんでした。さらに、余震の多さも今まで聞いたことが無い多さで、揺れがあまり大きくなかった三角でも車中泊をした人も結構多くいました。

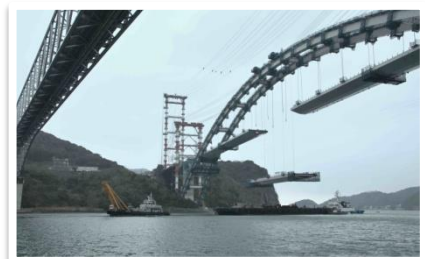
年も変わったので、明るい話題を一つご報告します。三角と大矢野を結ぶ「新天門橋」が現「天門橋」の横に工事中です。新天門橋は国道266号の大矢野バイパスとして工事が進められているもので、具体的には、三角の天門橋入口交差点の少し西港寄りから取付道を造り、新天門橋で海を越

え、大矢野町登立で国道に繋がる、約3kmの往復2車線、対面通行の自動車専用道です。

本年2月20日に海上部分の道路桁の架設が終わり、現在は山側から海上部へ取付道の工事が進められ、その後に舗装等の工事になりますので、新しいバイパスを走れるようになるのは平成30年度の予定です。

なお、現在の天門橋も引き続き供用されるので、新天門橋ができれば、三角・大矢野間が複線となるので、夏休み等の渋滞が相当緩和されると思います。また、このバイパスは、天草市役所と熊本県庁を1時間半で結ぶことを目的に計画されている熊本天草幹線道路の一部で、将来的には、ここから宇土半島を縦貫する自動車専用道ができると言われてしています。最も、それが完成するのは10年以上先のようなので、三角から宇土へ自動車専用道を走れる日まで私も元気に頑張ろうと思っています。

下の写真は、本年2月20日に行われた工事の様子で、道路桁をアーチに仮設されたクレーンで、海上から吊り上げています。
池田 伴雄（昭和42年卒）



その色は？ - 熊本地震への想い

テレビでしか見たことがなかった張り紙が、自宅に貼ってある事実を受け入れるには、かなりの時間を要した。平成28年4月14日21時26分、熊本を襲った震度7の地震は、その後16日にも地元を揺らし続け、余震もこれまでの地震とは比べものにならないくらい多い地震となった。

ゴールデンウィークを利用し、単身熊本に乗り込んだ。いつもなら熊本空港を利用するのだが、便数も少ないうえに熊本空港から自宅への陸路を考えると、いつ到着できるかわからないため、今回は福岡空港から新幹線を利用し、自宅へ向かった。まだ新幹線も全面復旧には至っていない時期であった。早朝に羽田空港を飛び立った飛行機は、順調に高度を下げながら福岡空港に着陸した。地震が襲った同じ九州とは思えない、普通の福岡空港の光景だった。行きかう人は何もなかったかのように往来し、店も普通に開いている。隣の熊本で前代未聞の地震が起こったと思っている人はほとんどいないのではないかと思うくらい、いつもの博多だった。

福岡空港から博多駅に到着し、新幹線を待っていると、徐々に震災があったことを実感するようになった。新幹線に乗る人は非常に少なく、一車両に数える程度である。支援物資と思われる荷物を持った人や、地元視察のためにきた国会議員、そして自分くらいが広々とした空間にポツン、ポツンと座っている。何ともさみしい光景である。

熊本駅に近づくにつれ、屋根のブルーシートの数が増えていくが、予想よりはるかに少なかった。新幹線の窓から見える地元は“ちょっとした地震がきた程度”にしか見えなかった。熊本城もほん

のわずか見え隠れしたが、いつもの熊本城に見えた。熊本駅から在来線に乗り換え、松橋駅に向かうまでは、被害の状況はそれほど分からなかった。新幹線から見た光景より少しブルーシートが増えたかな、という程度で、明らかに壊れた家や被害を受けた道路などは見当たらなかった。

羽田を発って約4時間後。順調に松橋駅に到着した。駅舎にはところどころひび割れがあるも大きな損傷はなさそうだった。駅前通りを歩いていると、街並みのいたるところに黄色い紙や赤い紙、緑の紙が貼ってあった。そうである。家屋の安全性を示すものである。この紙、非常にトリッキーで見た目に大丈夫そうでも“危険”の赤紙が張られているものもあれば、大丈夫?と思う家が“安全”となっていたりもする。駅通りの多くの家が半壊もしくは危険となっていた。街からは人影は少なく、住んでいる人は少なかった。父親の親友が経営する工務店が、ひと際忙しそうであった。通りを進むにつれて気になってきたのが、自宅の「紙の色」である。家族は避難はしているものの倒壊はしていないと言っていたので、緑か黄色だろうと想像というよりも、そうであってほしいと願いながらスーツケースを押した。結果は・・・(次号につづく)

内山 伸 (平成5年卒)



弁護士 伊藤 尚 (平成11年卒)

東京都千代田区永田町2-4-3永田町ビル8階
奥川法律事務所 (TEL:03-3580-6358)
個人または会社等の法律関係でお悩みがあれば、
ご遠慮なく何でもご相談下さい。

宇土高校の卒業生、またはその関係者の方には、初回法律相談料無料(30分5,400円)でご相談をお受けします。

<編集後記>

「平成28年熊本地震」から1年が経ちました。この大地震は、被災地に甚大な物的被害だけではなく、被災者に精神的苦痛も与えました。小生の実家も被災して「全壊」の判定を受けました。被災地の復旧・復興までは時間は掛かります。復興のシンボル・熊本城全体の完全復元まで約20年の年月を要すると聞いて絶句しました。「復興城主」のひとりである小生は、熊本城を愛して止みません。被災地・熊本にエールを送り続けたい思いは、一層高まっています。「頑張るばい熊本！負けんばい熊本！」

知ったかぶりの“まめ知識” - vol.6

-知っとんなはっですか？-

「ソメイヨシノ標本木 - 靖国神社」編



今年の桜(ソメイヨシノ)の開花が全国(沖縄を除く)で最も早かったのは、東京・靖国神社のソメイヨシノで、気象庁による開花宣言は、3月21日でした。このソメイヨシノは、東京の桜の開花の標本木(写真下)として、靖国神社・境内の能楽堂のそばに植えられています。標本木として指定されたのは、1966年です。ご存じの通り、靖国神社の近くには、日本武道館(開業日:1964年10月3日)があります。ちなみに、1966年は、英国のロックバンド、ザ・ビートルズが日本武道館でコンサートを開いた年です。靖国神社や日本武道館周辺(千鳥ヶ淵など)は、花見の名所です。何度訪れても心が癒され「日本人で良かった！」と思います。皆様も是非、散策してみたいはいかがですか。

